

関西経済

Kansai Economy

INTERVIEW 広論

塩崎 一裕 奈良先端科学技術大学院大学長

しおさき・かぎひろ 1987年京大理学、92年京大院博士課程修了。専門は分子細胞生物学。米・カリフォルニア大デービス校准教授。

教授を経て、2011年に奈良先端科学技術大学院大バイオサイエンス研究科教授。21年4月に学長に就任した。和歌山県出身。57歳。

「共創」新たな産学連携へ

最先端の科学技術研究と高度人材の育成を担ってきた奈良先端科学技術大学院大（奈良県生駒市）が、今年10月に創立30年を迎える。4月に就任した塩崎一裕学長は、コロナ禍をはじめ様々な社会課題を克服するため、「課題解決型」研究と「共創」がキーワードだと語る。（聞き手 杉田真吾）

実践大学

学歴のない国立の大学院大学として創設された塩崎「実践大学」と言われた。学部の体系的な学問の枠に縛られることなく、情報科学など現代社会で重要な分野に絞った研究を進めつつ、時代と共に変化を遂げる先端技術に研究対象を組み替えやすくする狙いがあった。

日本は、同じ大学の大学院に進む方バリエーション的な学内進学が大半だ。学歴がないことで学生は他大学の卒業生が集まり、欧米のまじりに学生の流動性を高めることももつたが、教育面では、最先端の研究に学生が携わらざるに、最高の教育機会を与えてきた。

大学院の対策ではないので、編入によるランキンングには出てこない。それでも論文の引用数や研究費の獲得額など、大学のベンチマーク（指標）では国内トップレベルにある。学生の1人に1人が留学生で、国際化でも先頭を走っている。「実践」という意味では、30年間で成果を収めたと言える。

「課題解決型」研究

2018年には三つに分かれていた研究科を、全学で一つの巨大な研究科に再編した。社会の様々な課題に挑む時、分野別

デジタル技術と融合させる試みだ。従来の学問別の教育や研究とは異なる、新たな融合分野を目指す。

の研究では解決策が生まれにくい。異なる分野をコーディネートしながら課題に挑戦できるような、リーダーとなる人材育成が使命だと述べている。

今年1月に設置した「デジタルクリイティブイノベーションセンター」も、本学が強みをもつ植物バイオや有用微生物の研究に

デジタル技術を融合させる試みだ。従来の学問別の教育や研究とは異なる、新たな融合分野を目指す。

の研究では解決策が生まれにくい。異なる分野をコーディネートしながら課題に挑戦できるような、リーダーとなる人材育成が使命だと述べている。

今年1月に設置した「デジタルクリイティブイノベーションセンター」も、本学が強みをもつ植物バイオや有用微生物の研究に



杉田真吾撮影

会で広がるSDGs（持続可能な開発目標）は、真摯な研究一環だった研究者に「あなた方は人類の危機に對し、何が出来るのか」と意識的な問いを投げかけた。

放散すれば、地球温暖化を加速して危機状態に陥る。こうした中で、課題を認識しながら研究を進める必要に迫られている。この「課題解決型」研究は真摯な研究と対立する考え方はなく、追究した個々の先端技術を組み合わせることが結局は課題解決につながる。双方がせん断線のように、互いを高め合っていくべきだ。

起業家教育

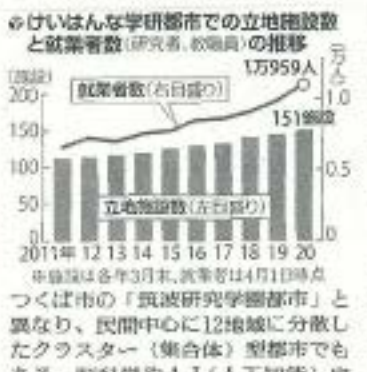
2019年を契機として公表した学長ビジョンでは、「共創」を掲げた。研究者や学生がアイデアや課題を共有し、新しい価値を創造していきたい。

共創には、学内にとどまらず、二重の意味がある。例えば、SDGsのような大きな社会課題は大学単独で解決できない。社会への実装といった場面では、企業との協力が不可欠で、共同研究や産学連携が欠かせない。

本学は関西化学研究都市（けいはんな学研都市）のシンボルとして、歩みを共にしてきた。けいはんなには、古い歴史や伝統と先端科学や技術、企業の研究所などが調在した多様性がある。学内の共創を外に広げるうえで素晴らしい環境で、地の利を生かし、社会との共創の輪を広げていく。

けいはんな 進む研究

奈良先端科学技術大学院大がある「けいはんな学研都市」は、京都と大阪、奈良にまたがる「京阪奈丘陵」で整備が進む。大企業や研究開発型の企業が進出し、2019年度末で立地施設は150以上あり、研究者や職員ら1万人超が就業している。宅地開発も進み、2万人超だった研究地区の人口も10万人を超えた。国主導で研究拠点を集めた茨城



動運転など時代や社会のニーズに対応した先端分野の研究や実証実験が盛ん、優れた研究成果を生み出す潜在力は高い。社会実装への住民参加も盛んで、技術を社会に実装する実験場としての魅力も高まっている。

インタビューで塩崎学長は先端分野でのイノベーション（革新）を起こす一手として、課題解決型の研究と多様な協業が欠かせないと強調した。自社で完結する日本型の組織は限界を越えつつある。組織の枠を超えてイノベーションに挑む新たな産学連携の形が、けいはんなを舞台に広がることを期待したい。（杉田）

学概要

1991年に誕生した国立の大学院大学。2018年に情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の3研究科を1研究科1専攻に統合している。教員196人、学生10,000人（4月現在）。

iPS細胞製作でノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥・京大IPIS 細胞研究所長も研究生活を送った。